

# エネルギーとポスト資本主義について

高原 利生

takahara-t@m.ieice.org 2016.09  
[http://www.geocities.jp/takahara\\_t\\_ieice/](http://www.geocities.jp/takahara_t_ieice/)

# 1 要約

- 過去1万年の人類の歴史はエネルギーの歴史
- 今後のエネルギーは？
- その時「価値」はどうか？

## 2. 準備：基本概念

概念	説明
オブジェクト	ある粒度で事実から知覚により切り取られる情報 =もの, 観念, その関係, それらの属性
粒度	空間的範囲、時間的範囲と属性
網羅	「抜け」の無いように全体を個々の要素で数え上げること

関係 → 運動

エネルギー

## 2.準備：根源的網羅思考と矛盾 [TS2011,12]

根源的網羅思考は、ゼロベースで最小の基本概念からオブジェクトの粒度を網羅的に扱う。

そうしないと適正な粒度、論理を得られない

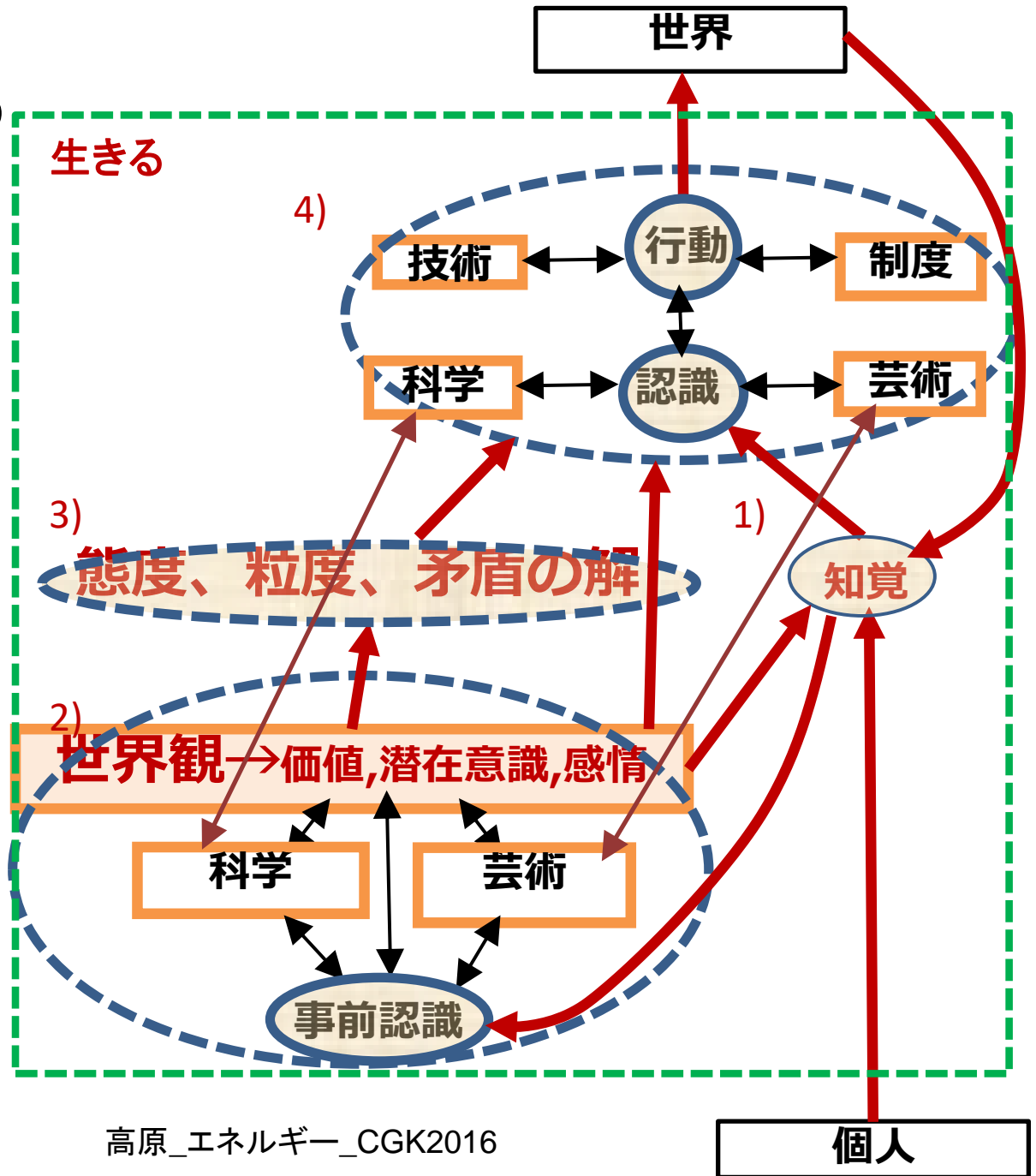
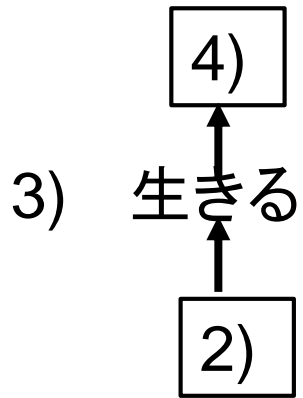
1. それ自体で有用：発見や発明が同一粒度の網羅や異なった粒度の網羅で得られる

2. 粒度と網羅の同時繰り返しサイクルを続けることが思考を深める

3. 矛盾と根源的網羅思考、これはそれ自身で矛盾で、その繰り返しの世界を変える

# 3. 現在の生きるモデル

単純さと最小エネルギー基準



## 4. 知覚 1) と 生きること 3)

知覚は「無自覚な自分-関係-オブジェクト」: 特別な「項1-関係-項2」: 矛盾

生きること 3) は、「自分-関係-オブジェクト」を決めること  
この関係は、

1. 態度(一体化と対象化)
2. 行動(作る, 運用)
3. 行動の方法(既存の思考をゼロベースで変更し行動する、既存の思考を修正し行動する、変更しない)  
対象化の価値は自由、一体化の価値は愛

## 5. 技術, 制度 4) と 世界観 2)

	操作	認識
対象化手段	技術	科学
一体化手段	制度	芸術

第一次の農業革命では、太陽エネルギーに気付きそれを利用した。  
第二次の産業革命では、化石エネルギーに気付きそれを利用した。

農業革命とともに始まった時代は、自然と神への**一体化**世界観の誕生とともに進んでいく。しかし、一体化世界観は十分には実現できなかった。

産業革命、資本主義とともに始まった時代は、オブジェクトを効率的に変更する**対象化**世界観とともに進んでいく。それは、一体化における謙虚さと愛が不十分という条件の下で進行していく。

## 6. エネルギー 1

### エネルギー変換、利用の型

1. 太陽エネルギーを利用可能な形に変換
2. 木や化石燃料のような太陽エネルギー起源のエネルギーを利用可能な形に変換
3. 人工エネルギーを利用可能な形に変換  
例：原子力、燃料電池



## 6. エネルギー 2

- ・太陽エネルギーや他の再生エネルギーは、主エネルギーにはならない

日本で、100年に1%の確率で起こる超火山噴火は、世界の太陽エネルギー利用を長期間停止しうる

地球の表面は、植物の光合成と人を含む動物のためのものであり、発電のためのものではない。地球と人のため

## 6. エネルギー 3

・化石燃料を使えるのは数百年である。二酸化炭素放出は止めることが重要

→ 空間・時間に拠らない、安全で豊富なエネルギーを作る技術革命が必要

例えば火星における人のエネルギーは、核融合と植物の光合成で

## 7. 今日と未来

我々が直面しているのは、新しいエネルギー開発とそのエネルギーに適合したポスト資本主義という制度革命を同時に行う第三次革命である。

ポスト資本主義は、一方向でない一体化と対象化、謙虚さと批判、愛と自由を統合した世界観とともに実現される。各々のこれらの片項は、それぞれ、第一次と第二次の革命の世界観の不十分な要素だった

## 8. 結論

ローカルな原子力(と光合成)による十分なエネルギーが  
実現、価値の基準、制約が(少)なくなる

人工知能の普及。労働の機械化



**一体化と対象化**、謙虚さと批判、愛と自由を体現した**努力**  
する「**個**」の確立と、これが、新しい真理、新しい価値を  
発見し続け、価値を高め続ける必要性の増大